

今月の畜産物市況

牛枝肉・豚枝肉・鶏卵・食鶏

牛枝肉

大勢は横バイか

6月以降の枝肉価格は多少の変動はあったが、順調に取引されてきた。10月にはオリンピックを目当てに産地から出荷が集中したが、オリンピック景気は牛肉には影響がなく、芝浦、大阪中央市場とも冷蔵庫は満庫となった。

11月に入ると産地が農繁期で出荷がにぶると、気温の低下とともに需要が多くなるので、中、下旬からは小幅ながら上げが望めそうである。

出荷のほうはオリンピックをあてにつぶしすぎているので、多くて例年並にとどまるであろう。

豚枝肉

よくて横バイ

春以降、徐々に上げ続けてきた肉豚価格も10月に入り急落を示した。これは枝肉の高騰から小売価格が上り、消費人気は鶏肉、牛肉、水産物に移ったことと、オリンピック目当てに集中出荷が予想以上に多かったためである。また、農林省の調査でも全国的に飼養頭数が増加しており、8月1日現在414万頭で前年に比べて16%増加している。年末から明春にかけて出荷が多くなり小幅安が続くものと予想される。しかし、これからはなべものなどのシーズンで年内は横バイの状態が続くだろう。

鶏卵

少々下げよう

7、8月は上げ下げがはげしかったが、8月下旬から10月上旬までの鶏卵価格は、ほぼ順調な推移を示し、全般連大阪支所1級品高値でkg当り175～195円、1日当り平均入荷量150～170tであった。10月にはオリンピック需要に期待がよせられていたが、消費は以外に振わず、中旬以降は日を追って下げ続けた。

また、春ビナの餌付羽数は9万3,000羽で前年に比べて12%増加しているので、例年11月は産卵率が低下する月ではあるが、今後も出荷は順調にと考えられるので、これから消費が伸びても、また年末の手当て買いがあてもあまり期待できない。しかし、あまりの安値になるとも考えられず170～190円（全販連大阪支所1級高値）を推移するものと予想されている。

食鶏

いぜんとして強気

営業用、家庭用ともに消費の盛んな時期になってきた。産地では餌付けが盛んになったとはいっても、肝心のヒナが不足気味である。

このため、ここ当分のあいだ供給が急にふえるということは考えられないので、順調にいった中ビナ220円程度でゆくものとみられる。